

特集
の
意
図

2013年4月号増大特集で「Antibody Update」を取り上げた。それから5年
が経ち、自己抗体研究はさらに進歩がみられている。本特集では前回の増
大特集の内容から新たに加わった知見を盛り込み、それぞれの自己抗体の
持つ意義や治療などについて各分野のエキスパートに執筆いただいた。

1. 神経系自己抗体産生のメカニズムとその病的意義（清水文崇，他） 自
己抗体がどのように産生され、どのように作用して疾患を発症させるのか、
そのメカニズムを示す。自己抗体産生の機序の解明は自己免疫性神経疾患
の治療に直結する。本特集の入り口として読んでほしい。

2. グルタミン酸受容体抗体 — 抗 NMDAR 抗体を中心に（田中恵子）
グルタミン酸受容体抗体に関わる自己免疫性脳炎、特に抗 NMDAR 脳炎
を中心に、臨床像や病態、治療法について最新の知見を紹介する。早期治
療が推奨されており、最近提唱された診断基準についても紹介する。

3. 視神経脊髄炎関連疾患と自己抗体（中島一郎，他） 視神経脊髄炎関連
疾患に関して、抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖蛋白抗体が同定された
ことを受け、この抗体が陽性となる症例の特徴を詳細に解説した。

特集の構成

4. 橋本脳症と自己抗体（米田 誠） 橋本脳症における多彩な臨床症候を
解説する。中でも、非腫瘍随伴自己免疫性小脳失調症の半数を橋本脳症が
占めることが明らかになった。免疫療法が奏効するなど、特徴を述べる。

**5. 電位依存性カリウムチャネル（VGKC）複合体抗体関連疾患 up to
date（渡邊 修）** 抗 VGKC 複合体抗体と関連する疾患について概説す
る。また、抗 VGKC 複合体抗体が陽性となるクロイツフェルト・ヤコブ病
や筋萎縮性側索硬化症などの非免疫性疾患についての捉え方も提示する。

6. 傍腫瘍性神経症候群と自己抗体（河内 泉） 傍腫瘍性神経症候群の診
断と治療について解説する。また、近年明らかとなった自己抗体について、
診断基準における分類をもとに現時点での知見を紹介する。

**7. P/Q 型カルシウムチャネル抗体とランバート・イートン筋無力症候群
（北之園寛子，他）** 抗体の特徴や疾患の病態機序、臨床症候などを、最新
の知見をもとにまとめる。小細胞肺癌と合併する場合も多く、その際の予
後についても触れる。

8. スティッフ・パーソン症候群と自己抗体（松井尚子，他） スティッフ・
パーソン症候群の臨床像につき特徴を解説したうえで、抗グルタミン脱炭
酸酵素抗体、抗アンフィフィシン抗体、抗ゲフェリン抗体、さらに近年明
らかになった抗グリシン受容体抗体についてレビューする。

9. 自己免疫性大脳基底核障害と自己抗体（佐久間啓） 自己免疫性大脳基底核障害について、小児と成人にそれぞれ特徴的な疾患を中心に解説する。抗大脳基底核抗体と疾患との関連性については十分に証明されていないが、現時点までに明らかになっている報告を整理する。

10. 脊髄小脳変性症と自己抗体（南里和紀，他） 自己免疫性小脳性運動失調症の病態について、抗グルタミン脱炭酸酵素抗体、抗代謝型グルタミン酸受容体抗体などの抗体が陽性となる疾患の特徴を解説する。また、自験例をもとにした新たな自己抗体の検索も紹介する。

11. 抗自律神経節アセチルコリン受容体抗体と自己免疫性自律神経節障害（中根俊成，他） 抗自律神経節アセチルコリン受容体（gAChR）抗体の特徴と自己免疫性自律神経節障害（AAG）の臨床像を、自験例などをもとにしながらまとめる。また、小児の AAG などの特殊な AAG や、自律神経障害と膠原病との関連についても触れる。

12. 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーの自己抗体（古賀道明） 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーに関して、近年、ランヴェイエ絞輪部周囲に存在する抗原に対する自己抗体の意義が明らかとなってきた。疾患概念を理解し、診断や治療において重要となる自己抗体の測定が求められる。

13. ギラン・バレー症候群における糖脂質抗体の展開 — フィッシャー症候群関連病態と Ca^{2+} 依存性糖脂質抗体（千葉厚郎，他） 糖脂質抗体の解明により、ギラン・バレー症候群の病態が明らかとなってきた。近年、著者らの見出した Ca^{2+} 依存性の糖脂質抗体について紹介する。

14. 重症筋無力症と自己抗体 — 重症筋無力症の分子標的治療薬開発に向けて（樋口 理） 重症筋無力症（MG）患者の 80% 以上で抗アセチルコリン受容体（AChR）抗体が検出される。免疫チェックポイント阻害薬の副作用として MG が注目されている中、急務となっている分子標的治療薬の開発について、最新の知見をもとに解説する。

15. 皮膚筋炎と自己抗体（藤本 学） 近年、皮膚筋炎に特異的な自己抗体が相次いで明らかとなった。2016 年には抗 Mi-2 抗体、抗 MDA5 抗体、抗 TIF γ 抗体の検査が保険承認された。これらの抗体について解説する。

16. 筋炎と抗アミノアシル転写 RNA 合成酵素（ARS）抗体（前田明子） 抗 ARS 抗体陽性例は、筋炎や間質性肺炎といった抗 ARS 抗体症候群を呈するが、抗 Jo-1 抗体など、抗体ごとに臨床像も多様である。それぞれの臨床的特徴、画像所見、筋病理所見などを解説する。

17. 封入体筋炎と自己抗体（山下 賢，他） 孤発性封入体筋炎の疾患概念や診断、病態について解説したうえで、近年同定されたサイトゾル 5'-ヌクレオチダーゼ 1A に対する自己抗体についてその意義を解説する。